



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



主の過越

主任司祭 小西 広志 神父

主のご復活おめでとうございます。今年はおかげさまで皆さんとご一緒に復活祭をお祝いできるようになりました。感謝いたします。

イエスさまの十字架でのご受難と死者の中からの復活のことを少し難しい表現で「キリストの過越秘義」(myserium paschale)と呼んでいます。イエスさまの十字架と復活、これこそが神の救いのわざの中心です。この過越秘義のおかげで教会があり続けます。さらには、すべてのキリスト者の生き方や生活はこの過越秘義に結ばれることで始まります。そしてより一層、密接に深く結ばれることを目指すのです。第二ヴァチカン公会議は次のように記しています。「こうして、人は洗礼によってキリストの過越の秘義につぎ木されてキリストとともに死し、ともに葬られ、ともに復活する。そして、子となる霊を受け『その霊によって、アッバ、父よと呼び』、父の求める真の礼拝者となる。」(典礼憲章 6)

私たちが教会でささげるミサは、キリストの死と復活、すなわちキリストの過越秘義を思い起こし、記念するものです。

ここで少し過越について考えてみましょう。過越 (pascha) はもともと「飛び越える」とか「通り越す」という意味があります。イスラエルの人々がエジプトで奴隷として苦しんでいたとき、主なる神は、エジプト人の家を打ちながらも、イスラエルの人々の家は「通り過ぎ」ました。これが主の「通過」「過越」です(出エジプト記 12 章)。この主の過越 (pascha) によってイスラエルの人々は奴隷から解放されました。それは奴隷から自由への移行だったのです。また人間を救うための神の介入でもありました。イスラエルの人々は代々、この過越祭を大切に祝ってきました。なぜなら過越祭は、自分たちの苦しみを喜びへと変えてくださるために介入してきてくださった神の愛と神の力を記念するものだったからです。

神の一方的な愛と力によって、イスラエルの人々は救われていきました。『出エジプト記』のなかで、この神の愛と力を、神のつばさとして表現します。「あなたたちは見た わたしがエジプト人にしたこと また、あなたたちを鷲の翼に乗せて わたしのもとに連れて来たことを。」(出エジプト記 19 章 4 節)

神の力が無力な人々を抱き上げ、運ぶのです。ここでは人々は受け身です。ただ神の力のなすがままに委せ、運ばれて、解放されてゆくのです。このようにして「過越」の理解は次第に深まってゆきました。すなわち、無力で苦しむ人々が、神の手によって闇の世界から光の世界へと脱出してゆくこと、移行してゆくこととして「過越」は理解されていったのです。『イザヤの預言』にはこんな箇所があります。「(主は) 彼らの苦難を常に御自分の苦難とし 御前に仕える御使いによって彼らを救い 愛と憐れみをもって彼らを贖い 昔から常に彼らを負い、彼らを担ってくださった。」(イザヤ 63 章 9 節)

過越祭でイスラエルの人々が思い起こそうとしたのは闇と奴隷の状態から解放され、自由と光、生命の世界に、神の愛と力によって運ばれていったことだったのです。

新約聖書では、『ヨハネによる福音書』がイエスさまの十字架の出来事を、新しい過越と理解しようとしています。そこでは、イエスさまの十字架の出来事をイスラエルの人々の過越祭と関連させて描いています(11 章 55 節、13 章 1 節、18 章 28 節、19 章 14、42 節)。イエスさまご自身も「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」(13 章 1 節)とあるように、十字架の死を闇の世界から、御父の世界へと移るときだと理解しています。それによってすべての人を天の御父のもとへと引き上げるためでした(12 章 32 節)。かつて神が人々を抱き上げ、シナイ山での神との一致へと運んできたように、こんどはイエスさまが、ご自分の肩の上に全人類を乗せ、御父の光と生命の世界へと運んでゆくのです。イエスさまの人間性に全人類が包まれ、イエスさまが地上からあげられることが、そのまま全人類が御父のもとへと運ばれたことにつながるのです。

罪を犯し、無力で弱り果てて惨めになった人間を、怒ることもなく、復讐することもなく、償いを要求することなく、そんな人間の姿を「見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻」(ルカ 15 章 20 節)する父の姿がそこにはあります。闇の世界から光の世界へと、死の世界からいのちの世界へと運んでくださる神の愛がそこにはあるのです。十字架は過越の出来事を記念するためにあり続けます。

復活祭のお祝いのムードをかき消してしまうような、十字架のお話になってしまって恐縮です。しかし、復活祭には死からいのちへの、闇から光への移ろいがあるのです。その点をここに深く味わいたいです。そして、この地上で見えるものと言えば、イエスさまの十字架だけです。十字架で苦しまれるイエスさまのお姿の先に、復活のいのちの輝きを見いだしていけたら、困難の中に生きるわたしたちにも希望が訪れるのだと信じています。